

北九州市の経済循環構造

生産・分配・支出の3面からの把握

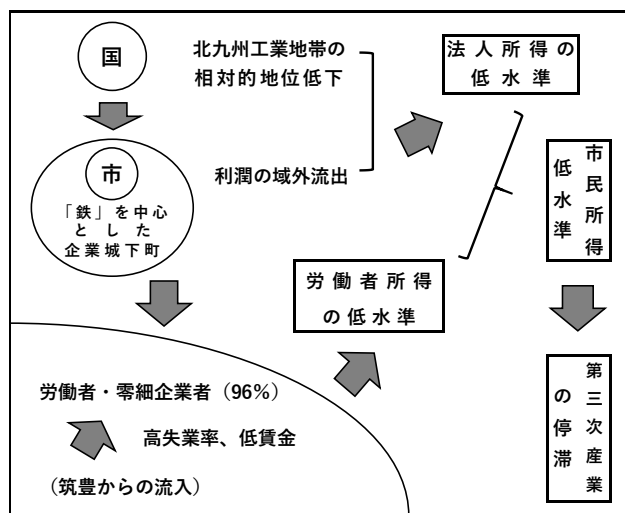
「北九州市民の会」の事務局長である三輪先生は、1986年に刊行された『生き生き北九州市』で、高度成長期における北九州経済の停滞状況の構造的基礎を、右図のように明確にされました。

この経済分析に感銘し、このように地域研究をしたいと考えてきました。しかし、市町村レベルで「生産」「分配」「支出」「資金循環」まで明らかにする経済データは少なく、思うようにはいきませんでした。

最近になり、地域経済循環分析のツールとして、環境省「地域経済循環分析」や内閣官房「地域経済分析システム（RESAS：リーサス）」などが、国のHPで公表されるようになりました。

環境省「地域経済循環分析自動作成ツール」は、市町村単位の分析が可能であり、地域経済循環の諸データを、自動的に作成することができます。同システムを利用し、北九州市の諸指標・図等を作成しました。これを基に、北九州市の経済循環構造（2015年）の概要を紹介いたします。

資料1 北九州市の停滞構造 ～『生き生き北九州市』より～



経済循環構造の概略

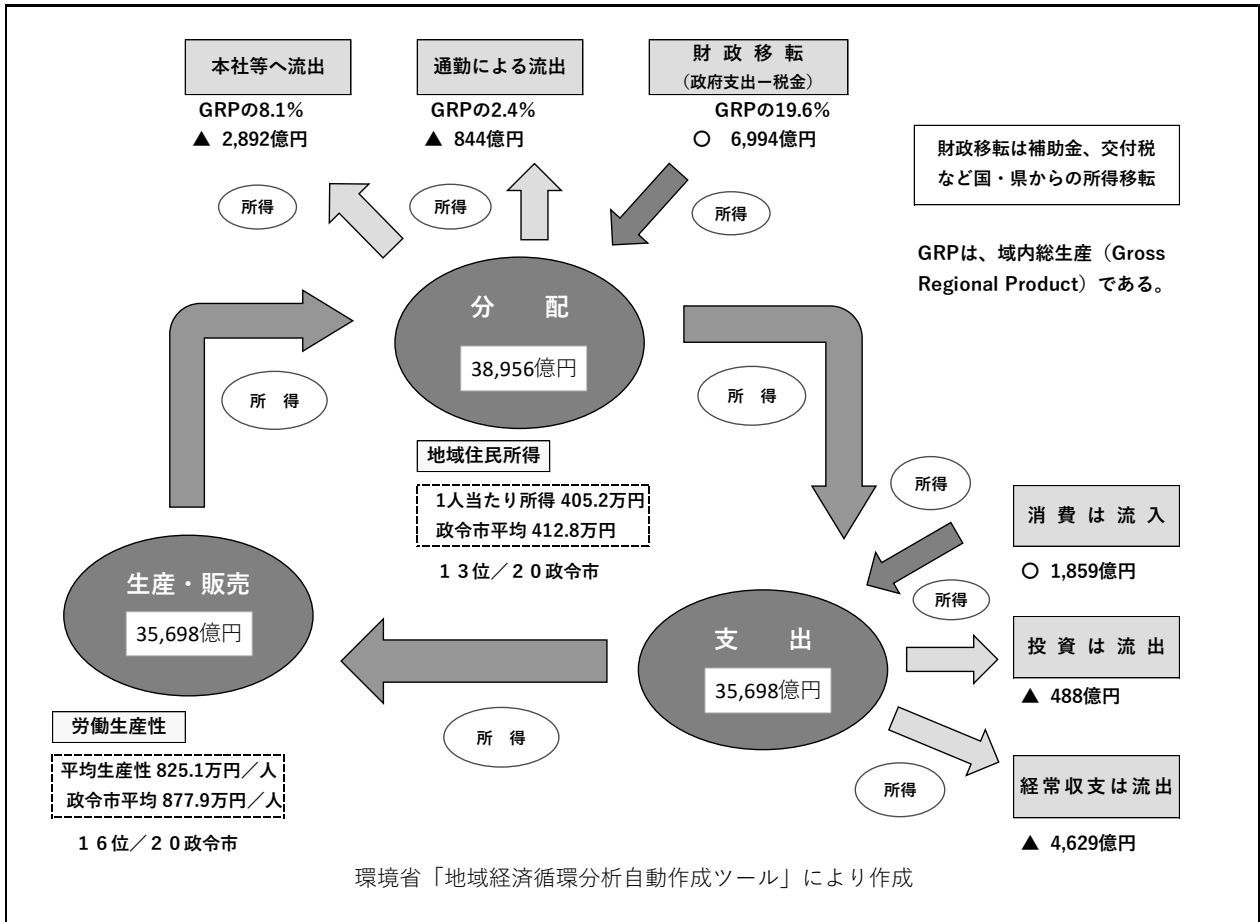
北九州市の地域経済循環構造の概略図を、資料2に示しています。

まず、生産・販売面では、地域で付加価値を約3.6兆円生み出しています。分配面では、市民は3.9兆円の所得を得ています。つまり、生産・販売から分配に至る過程で3,258億円（9.1%）の所得が地域外から流入していることになります。

それは次のとおりです。①民間企業ベースで本社機能への利益等として2,892億円が流出し、②雇用者所得も市外からの通勤者により844億円流出しています。しかし、③補助金・交付金等の財政移転が6,994億円流入しており、前述の流出を上回ります。このプラス分が地域外から流入している金額であり、生産・販売面より分配面での市民所得が多くなる理由です。

分配所得は、消費や投資、経常収支などに支出されます。支出面で、地域内への支出額は約3.6兆円で、分配所得3.9兆円を下回っています。①消費は、買物や観光などで1,859億円、地域外から流入しています。一方、②民間設備投資が488億円、③経常収支で4,629億円、それぞれ地域外へ流出しています。民間設備投資と経常収支の流出が、消費の流入よりも大きく、全体では3,258億円の流出になっており、この分だけ需要が市外へ流出していることになります。

資料2 北九州市の地域経済循環構造（2015年）



民間設備投資や経常収支が地域外へ流出することは、生産面への還流が小さくなり、生産の拡大に繋がりません。また、設備投資の流出により、将来の生産のための機械や工場が流出しており、将来の生産拡大に繋がらないことでもあり、地域経済としては好ましくない状況といえます。

以上が、北九州市の経済循環を「生産」「分配」「支出」の3面からみた概略です。地域経済循環の観点からは、市内の企業、生産者、市民あるいは公的部門の活動の果実が域外に出ず、市内でしっかり確保されることが、市民所得の向上には重要であることがわかります。